

たいむとらべるとうやこ



Time Travel Toyako



vol.14 町内で地域食堂オープン

～洞爺湖町の歴史を振り返ります～



地域食堂でテーブルを囲む利用者

地域食堂

一人暮らしの高齢者の増加、地域間交流の衰退などの対策として開設。子どもの貧困問題などに対処するため「子ども食堂」に取り組む自治体もあり、近年、全国各地で広がりを見せています。

地域住民の「居場所」をつくる取り組みの一環として、町で初めての地域食堂が2018年3月、オープンしました。

この年にオープンした地域食堂「ほのぼの」は、全国各地で地域食堂を運営するNPO法人ワーカーズコープに町が事業を委託。同法人のスタッフと地域ボランティアが協力して週1日開かれ、プレオープンから約2カ月で延べ168人が参加するなど好評でした。

現在では町の補助金を活用して行われている「洞爺しあわせ食堂」（虻田地区）と、住民ボランティアが運営している「洞爺地区つながる△トーヤコビト食堂」が活動中。年齢や性別を問わず、全ての町民が利用でき、毎回おいしい食事が味わうことができます。

ほのぼののオープンから5年が経ちましたが、地域食堂を紹介したふれあいの輪は今も広がり続けています。

東奔西走



人事異動のため、私が作成に携わる最後の広報となりました。これまで取材に協力いただいた皆さん、毎月広報を楽しみにしている皆さん、4年間本当にありがとうございました。これからも「広報とうやこ」をよろしくお願いいたします。（M.O）
マスキングの着用が個人の判断にゆだねられるようになりました。町中ではまだまだ着けている人がほとんどですが、中学校の卒業式では素顔で保護者に感謝を伝える3年生の姿も。長かったマスク生活も少しずつ終わりを迎えそうです。（D.Y）

今月のワンショット



蛇田中学校の卒業式で記念撮影